

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和2年6月18日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4679200099
法人名	有限会社 こぼれ陽
事業所名	グループホーム こぼれ陽
所在地	鹿児島県大島郡天城町天城783番地 (電話) 0997-85-4073
自己評価作成日	令和2年5月11日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和2年6月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

食事・排泄・睡眠・清潔に力を入れています。認知症の方には毎日の生活、1日の過ごし方(リズム)が大切です。食事・排泄・睡眠・清潔が生活の基本となります。食事はホームの畑で採れた野菜や果物、また近隣の知人などから頂いた自家製の食材も利用しています。排泄は自然な排泄ができるように発酵食品や水分摂取、運動などで排便を促す工夫をしています。快眠には食事・排泄が不可欠です。またしっかりと睡眠がとれる事により食欲も向上し排泄もリズムが出てきます。このリズムが徘徊等認知症問題行動抑制にも繋がります。清潔保持にはヨモギの葉を煎じたお湯を使用し毎朝全身の清拭をして老人性の乾燥肌、掻痒等を予防しています。入浴を拒否される方にも毎朝の清拭で清潔を維持できています。基本的な生活ができてこそ安心・安定した気持ちでホームでの生活が送れると考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は家庭的な雰囲気、利用者の個別性を活かすように努め、全員の朝食終了後に理念を唱和、職員と一緒に手をつなぎお互いの個々の温もりを感じ温かい心で接している。
- ・運営推進会議は委員から活発な意見が出され、何でも話せる雰囲気作りができています。
- ・市や町との連携も良く、事業所の実情の報告や相談などを行い、行政からは、認知症サポーター養成講座の講師を依頼されるなど、協力関係ができています。
- ・重度化や終末期に向けた支援は、代表者が看護師であり、医療機関との連携も整っており、職員は安心したケアに取り組んでいる。看取りの事例もある。
- ・利用者の清潔保持に努め、よもぎの葉を煎じて毎日清拭を行う事で、皮膚の乾燥や掻痒など予防できている。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	毎朝、職員と入居者全員で理念である「このいと小さきものの一人にした事は、私にした事である」何らかの病により眠る事も食べる事もでき無い程弱ってしまった人を支援する。この理念に基づき言葉を入居者と共に共有し実践できるよう努めている。輪になって手を繋ぎ手の温もりとその人の感情を受け止めています。	毎朝、食後に職員と入居者と一緒にお祈りを捧げ事業所の理念を唱和している。手をつなぎ手の温もりを感じながら管理者と職員は事業所の理念を共有し実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者と共に買い物に行く商店や地域内のカトリック教会との交流、天城町上城小組合に属し、地域住民との交流を行っている。	買い物時に地域の方からの声掛けがある。近隣住民も高齢の為、事業所からの広報紙を配り同時に安否確認をしている。近所の方からの野菜の差し入れなどもあり、地域の一員として日常的な交流を行っている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	副施設長は今年度より天城町地域包括ケア会議の会長を務める事となり、また天城町社会福祉協議会評議委員を兼任しており各関係機関との連携を行い高齢者福祉に長年携わり続けている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での入居者家族からの要望や意見の聞き取り、行政からの指導や問い合わせ等からサービス向上に繋げている。	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し委員からは活発な意見が出されている。外部評価の報告も行っている。看取りの契約書についてやサロンへの参加についてなどを話し合い、サービス向上に繋げている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	施設長は日頃より町役場担当者等との意見交換を行っており、高齢者福祉に積極的に携わり認知症サポーター養成講座の講師等務め協力関係を築いている。	行政からの案内で研修会に参加している。事業所の実情など報告しアドバイスを受けている。役場からは認知症サポーター養成講座の講師依頼を受ける等、行政との協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	3か月ごとに身体拘束適正化検討会議を行い「身体拘束廃止の指針」等の周知確認を行い、心身及び言語も含めた身体拘束及び虐待の事実の有無を振り返り確認を行っている	身体拘束に関するマニュアルを基に3ヶ月毎に身体拘束適正化検討委員会の中で研修を行い、言葉に関する事など確認しながら対応している。日中の玄関の施錠はしていない。外出希望者には職員が見守りを行ったり、一緒に散歩している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束適正化検討会議においても虐待に関する個々の職員の意見の聞き取りを行い虐待防止への意識・考え方等の確認を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	この機会に勉強会を開き全職員への左記の再認識及び周知を深めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居契約時には本人及びご家族への重要事項の説明・個人情報使用の同意等文書の交付を行い、契約に至ります。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議にて、ご家族及び入居者の要望意見等を公表する機会を設けており、また随時ご家族との連絡をとり、その内容・改善点等を職員への周知を行っている。	本人や家族の意見や要望が気軽に言えるような雰囲気できています。家族の要望で研修会参加希望があり、即対応し、運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員数が少ない事もあり日々の勤務の中での情報交換がなされており、また日誌での連絡等の閲覧も全職員が行える環境である。	職員の意見が自由に言える雰囲気があり、日々の勤務の中で気づきなどを管理者に報告し、即話し合いを持ち、改善している。利用者への支援について、同性の職員で対応するように改善できた。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職場環境の透明性もあり、職員個々の勤務実態を把握出来ており個々の職員に合わせた条件にて無理のない勤務体制作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修等に参加し、OJTにおいても介護方法や対応等についての意見交換を日々行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	徳之島地区グループホーム連絡協議会での日常業務等での相談や勉強・研修会等の企画運営・サービスの向上への取り組みを定期的に行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に本人・ご家族・ケアマネジャー・かかりつけ医療機関・保健者等からの聞き取りを行い、また当施設の環境や現状を見学または体験入所等行っいただき双方の理解がなされるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	同上		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者個々を尊重し、アセスメントを基に安心・安全にその人らしく日常の生活が過ごせるよう地域資源の把握活用に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援を求める人と支援を行う人は対等・共存関係である事の理解が得られるよう努める。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	支援を必要とする本人を支えるご家族の思いを理解し共に考える事で信頼関係が築けるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族・地域住民との連絡・面会は常時可能であり、また個人情報に配慮しながら当施設がそれを働きかける事も行っている。	家族の協力で美容室に行く事や職員と買い物に出かけたり、途中で近所の友人と会話を楽しんだり、電話での交信など、馴染みの関係が途切れないように支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者どうし自由に共用スペースにて過ごし、仲たがいが見られる入居者どうしても時には笑顔で話されたりする事も見られている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	人と人との繋がりが伝わりやすい地域性であり、命日・お盆・お墓参り等伺う事もあり適宜関わりあっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時のアセスメントを初め、日々の言葉や動作・表情から思い及び意向を理解・推考し本人を中心に置きながら共同生活がなされるよう努めている。	日々の会話や表情で思いが把握できる事がある。把握できた事は記録し全員で共有している。把握の困難な場合は、家族に相談し職員で話し合い本人の思いに添って支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントを初め、入居後の雑談・思い出話やご家族からの情報（生活歴・背景等）、知人・医療関係者等への聞き取りを行っている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一般家庭の様に変化のあまりない安定した日常の中で少数緊密な関係にあり多くの時間を共に過ごす為、自然な形で相互の理解があり、職員一人一人の観察意見を共有している。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	主に計画作成担当者が作成しているが、各関係者の情報及び意見・提案を取り入れ現実的な介護計画等の作成に努めている。	本人や家族に意向を聞き、各関係者からの情報などを把握し、意見やアイデアを取り入れ、現状に即した介護計画を作成している。モニタリングは6ヶ月毎に、年1回状況に応じ見直している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録への各職員の介護記録及び申し送り等は全職員閲覧可能であり、また口頭での情報交換も頻繁になされており介護実践や介護計画作成に活かされている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者個々を尊重し、アセスメントを基に安心・安全にその人らしく日常の生活が過ごせるよう地域資源の把握活用に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	関係医療機関・行政機関・グループホーム協議会・地域住民及び区長・会話ボランティア等との協働を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時での重要事項説明にて本人及びご家族への確認の下に、連携医療機関の定期訪問診療（月1回）及び定期の血液検査・予防接種等の実施を行い、また緊急時等24時間の連携体制を整えている。	本人・家族の希望を聞き、協力医療機関の受診を支援している。緊急時の受診や他科受診、眼科や歯科は家族に付き添ってもらっている。身体状況を家族に報告し、適切な医療が受けられるよう支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内に居住する非常勤看護師を配置しており日常的に全職員との情報の共有を行っている。入居者の体調不良時には連携医療機関への連絡相談を行い迅速に訪問診療の手配を行っている。また当施設職員への医療的ケアの指導・助言を行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には医療機関及びご家族との情報交換を密に行っている。地域性もあり知人も多い為、病院関係者との連携が図れている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者及びご家族への延命治療・看取りについての説明を行い意向の確認を適時行うようにしている。また連携医療機関との情報共有を行い、運営推進会議にて検討を行っている。	契約時に重度化や看取りについて書面にて説明を行っている。ターミナルケアについては半年毎に見直しを行っている。医師との連携を密にして、食事が摂れなくなった段階で家族と主治医が話し合っている。数名の看取りケアの事例がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	体調急変時の初期対応の周知及び避難訓練の定期的な実施は行っているが応急手当等の訓練は昨年度からは行っておらず今後勉強会等を行いたい。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災報知機及びスプリンクラーの設置、定期の消防設備等点検を実施している。定期の避難訓練を行い避難場所の確認及び地域区長との協力体制を整えている。また災害時の物資の備蓄を確保し、入居者家族への協力依頼等行っている。	年2回、火災避難訓練を夜間想定で消防署の指導の下実施している。避難場所の確認、地域との協力体制もできている。台風時の対策や発電機・毛布・オムツなどを準備している。食糧品のおにぎり・ラーメン・缶詰・レトルト食品・飲料水等を備蓄している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々人の思いを理解または推察し本人が必要な支援を思いやりを持って行う。	プライバシーに関するマニュアルを基に、排泄時の声掛けなどプライバシーを損ねないように配慮している。気づいた時などは管理者から注意し、その都度職員間で話し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者個々への支援の見極めを行い様々なコミュニケーション方法をとって日常生活行為を本人にとって正善に、安心して過ごせるよう声掛けを行い傾聴するよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の生活の流れの中で、業務と入居者個々人のペースとのバランスをとりながら可能な限りパーソンセンタードケアの実践に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	整容等の判断意識がある方には服を選んでいただいたり、鏡の前での整容を促している。そういった意識が見られない方には本人持参の服等を職員が推察行い身だしなみを整えている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な方にはテーブル拭きや野菜の皮むき・片付け等職員と雑談しながら取り組んでいただいている。個々に合わせた食事形態にて提供し、可能な限り本人での自力摂取を行っている。	テーブル拭きや野菜の皮むきなど職員と一緒にやっている。誕生会のケーキ作り、各行事でのちらし寿司や赤飯などを提供している。「刺身が食べたい」などの要望があり対応している。食事が楽しめるように支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	全入居者1日2～3食を概ね完食し2食となる場合には主治医より処方されている栄養補助食品を適量摂取している。また水分摂取は常に注意しており声掛けや介助にて必要量摂取に努めている。年2回実施する血液検査での栄養状態値等に問題所見無し。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員勉強会にて口腔ケアを学び各入居者1日2回の実施を行っている。また必要時には連携歯科医院の訪問診療を行っている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	起床後や食後等の定時の声掛け及び個々人の排泄パターンを把握し声掛け誘導等行い、行為及び動作に応じて声掛け・見守り・介助を行っている。	個々の排泄パターンを把握し声掛けを行っている。トイレ誘導や見守り・トイレ介助を支援している。夜間は部屋にポータブルトイレを設置している。自立に向けた排泄ができるよう支援し、改善した事例がある。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜中心の献立や発酵食品を日常的に考慮し、また水分摂取量を常に意識している。入居者5名中4名は便秘等無く、1名のみ必要時には処方されている便秘薬の使用を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴日の設定はあるが外気温や本人の希望・体調及び意思を確認して柔軟に対応している。	夏場2回冬1回と入浴支援を行っている。毎朝ヨモギの葉を煎じて清拭を行って、皮膚の乾燥予防や掻痒症予防につながり個々に応じた入浴支援ができています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	環境としては静かな立地での一般住宅であり高齢者にも馴染みやすく居間や食堂のソファで居眠りされたり思い思いに落ち着いて過ごせるよう声掛け及び非言語コミュニケーションを心がけている。就寝時も入居者全員が静かに良眠されている様子がある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員間での薬理作用についての情報共有を行っており、また常時確認できるよう各入居者の服薬説明書を閲覧できるようにしている。服薬の声掛けや介助は各職員に声掛け確認後に実施記録している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の希望やご家族からの聞き取りにて家事を協力していただいたり、好きな音楽を聴いたり、テレビ観賞をお茶飲み雑談しながら過ごしたり、天気の良い日には散歩したり気分転換が図れる様努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	本人の希望に応じて散歩や近隣のスーパーへの買い物等職員と共に行っている。また適時気分転換に散歩等行っている。	職員と一緒に近所を散歩したり、スーパーマーケットに買い物にでかけている。家族が正月やお盆には自宅に連れて行く事もある。車椅子の利用者も時々庭に出て外気に触れ、季節を楽しんでいる。少しでも外出ができるように支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人及びご家族の要望の下に自己管理なされる方にはご家族等と相談し管理していただき、個々に応じて適切に行っている。自己管理困難な場合には社会福祉協議会との協力にて管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	ご家族からの電話及び本人からも自由に行えるようにしており、またご家族との業務連絡を行う際には本人と繋げるよう声掛け等行っている。手紙の代筆等にも応じている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	民家改修型の施設である為、家庭的な雰囲気・生活感があり自然の光や風、季節感が感じられます。食堂からは季節の花々を眺める事ができ静かに過ごせる環境がある。	家庭的な環境で台所・食堂から広い庭の季節の植物や花を眺め、好きな場所で、季節を感じながら生活ができ、ゆったりと居心地よく過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂の他、入居者及び職員達と過ごせる共用空間があり、それぞれが自由に過ごせるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人及びご家族の要望に応じ、簞笥・仏壇・布団等持ち込んでいただき馴染みある空間づくりを行い安心して過ごせるよう努めている。	各部屋の雰囲気が好みで異なり、畳の部屋もある。個々に家具や椅子・タンス・衣類・家族写真などを飾り、家族の面会も自室でくつろげる。居心地よく過ごせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	夜間時の排泄不安解消の為のポータブルトイレの設置や各部屋入り口に入居者名（表札）の設置、非常口・トイレの案内掲示等行っている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの広がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない